

教育課程特例校による特別の教育課程の編成の方針等について（英語活動の実施）

1 岡崎市における教育課程特例校指定の沿革

岡崎市では、英語で自分の思いや考えを伝え合うことができる「英語が話せるおかざきっ子」の育成を目指し、平成 22 年度より教育課程特例校の指定を受け、小学校第 1 学年から第 6 学年で「英語活動」を実施してきました。

平成 31 年度以降、学習指導要領の先行実施に伴い、第 5、第 6 学年で外国語科の授業時間数が週 2 時間に増えたことを受け、教育課程特例校による特別の教育課程の編成を小学校第 1 学年から第 4 学年までに変更しました。

また、今年度からは次期学習指導要領への対応を見据え、総合的な学習の時間をより柔軟に活用できるよう、小学校第 3・第 4 学年の外国語活動の授業時数を変更しています。令和 9 年度の完全実施に向けて、各学校において教育課程の工夫・改善を図りながら、より効果的な外国語教育の実践に取り組んでいます。

2 岡崎市における小学校第 1 学年から第 4 学年での取組

現在岡崎市では、小学校第 1 学年から第 4 学年において「英語活動」の授業を行っています。

第 1 学年と第 2 学年では、「生活科」の 105 時間のうち 35（第 1 学年は 102 時間のうち 34）時間を「英語活動」に充てています。小学校第 3 学年と第 4 学年では、「総合的な学習の時間」20 時間を「外国語活動」に充てています。そのうちの 35 時間を、OK English を視聴する時間に充てています。

【資料 1】岡崎市の教育課程（基本案）

区分	各 教 科										特別 の 教科 道 徳	特別 活 動	総 合 的 な 学 習 の 時 間	外 国 語 活 動 + 英 語 活 動	総 授 業 時 間
学 年	国 語	社 会	算 数	理 科	生 活	音 楽	図 画 工 作	家 庭	体 育	外 国 語					
第1学年	306		136		68	68	68		102		34	34		0+34	850
第2学年	315		175		70	70	70		105		35	35		0+35	910
第3学年	245	70	175	90		60	60		105		35	35	50	55+0	980
第4学年	245	90	175	105		60	60		105		35	35	50	55+0	1015
第5学年	175	100	175	105		50	50	60	90	70	35	35	70		1015
第6学年	175	105	175	105		50	50	55	90	70	35	35	70		1015

各学年における「英語活動」では、毎日 10 分の帯時間に岡崎市小学英語研究委員会の自作動画教材『OK English(約 8 分の動画教材)』を視聴することで、週 1 コマの授業時間としています。動画の内容は、英語の歌、フォニックス、リズムに合わせてネイティブスピーカーの後に単語や文を発音する活動、実際に動作をしながら学級の中で他の児童と会話をする活動など多岐にわたります。各学年の発達段階を考慮しながら、学級担任とともに動画を繰り返し視聴することで、英語の音や基本的な表現に慣れ親しんでいます。



【資料 2】OK English

3 本校の取組

本宿小学校は、平成 23 年から岡崎市から研究委嘱を受け、英語研究に取り組んできました。平成 27 年度まで 5 年間の研究を進めてきた中で作成してきた独自の英語活動のカリキュラム、指導方法、英語教材を生かしつつ、現在は岡崎市の教育課程に合わせた英語活動と外国語活動・外国語科の学習を行っています。

第 1 学年から第 4 学年までの「英語活動」は、毎日 8 時 10 分から 8 時 20 分の時間を活用し、「E タイム」として『OK English』の DVD を視聴しながらチャンツのリズムに合わせた発音練習を繰り返したり、歌や踊りを楽しんだりして英語に慣れ親しむことができます。

また「外国語活動」は、「MEW タイム」として、第 1 学年と第 2 学年が ALT と、第 3 学年と第 4 学年では ST とともに英語に慣れ親しみ、伝え合う活動に取り組んでいます。そこで培った英語を楽しむ気持ちをもとに、第 5 学年と第 6 学年は「外国語科」で、週 2 時間の学習を ALT と共に進めています。

本校独自の取り組みとしては、児童委員会活動「スマイル集会」で、児童による企画をもとに年 1 回の全校英語集会を開催し、ゲームや体を使った遊びを通して、英語を楽しむ活動を行っています。

また、3 月には「One day ALT」と称して、複数の ALT を招き、ALT の先生と一日の学校生活を一緒に過ごす日を設定しています。他教科の授業や休み時間、給食といったふだんの学校生活の時間に身近にいてくれる ALT の先生を相手に、これまでに学んだ英語をなんとか駆使してコミュニケーションを取ろうとし、言いたかったことが伝わった時の喜びが、次の英語活動への意欲につながっています。

一方、教師も自ら学び合う場として、外国語活動・外国語科の研究授業を、毎年継続的に行っています。長年、本校の英語研究に携わっていただいている大学の先生からの指導や助言をいただきながら、子どもたちが英語を使って話したいと思える場面を学習の中で設定できるよう、日々研鑽を積んでいます。